

87年前、我々の父祖たちは、自由の精神にはぐくまれ、すべての人は平等に造られている、という信条に捧げられた、新しい国家を、この大陸に生み出しました。

現在、我々は大きな内戦のさなかにあり、その国家が、あるいはそのようにして生まれ、そのようにささげられた国家が、長く存続できるかどうかを試されています。

我々はその戦争のかつての大きな戦場に集まっています。我々は、我々の国家が生きながらえるようにと、ここで命を捧げた人々のための、最後の安息の地として、この戦場の一部を奉獻するためにやって来ました。我々がそうすること(慰霊を行うこと)は、まったくもって適切であり正しいことです。

しかし、より大きな意味において、我々はこの土地を奉獻することも、神聖なものとするのも、浄化することもできません。ここで戦った勇敢な人々が、生者も死者も、我々の

微力な力では到底及ばないほどに、すでにこの地を神聖なものとしているからです。

世界は、我々がここで語る言葉にほとんど注意を払わず、長く記憶にとどめることもないでしょうが、彼らがここで成し遂げたことを決して忘れることはできません。

むしろ我々生きている者こそ、ここで戦った人々が、これまで気高く押し進めてきた未完の事業に、ここで身を捧げるべきなのです。

我々の前に残された偉大な課題に、ここで身を捧げるべきは、むしろ我々自身です。すなわち、名誉ある戦死者たちが、身命を賭して守ろうとした大義に対して、我々が彼らからよりいっそうの献身を受け継ぐこと、これらの戦死者の死を、絶対に無駄にしない、とここで固く決意すること、神の下でこの国家が自由の新たな誕生を迎えること、そして、人民の、人民による、人民のための政治を地上から決して消滅させないことです。